

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：62608
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21652026
 研究課題名（和文）観相資料の文学的研究

研究課題名（英文）A Study of literature about the physiognomy documents

研究代表者

相田 満 (AIDA MITSURU)
 国文学研究資料館・研究部・准教授
 研究者番号：00249921

研究成果の概要（和文）：

日本における観相の文学や絵画への影響を立証した。また、以下の研究を行うことを通じて、観相の知識体系が創作活動全般に影響を与えたことを示し、それぞれ成果をあげ、研究ネットワークの構築につとめた。

- (1) 観相譚・観相表現の発掘と分類
- (2) 観相資料と知識体系の理解と把握
- (3) 古典絵画を対象とする観相の実践
- (4) 研究をサポートするためのトピックマップデータベースの構築

研究成果の概要（英文）：

We proved the influence on literature and picture of the phrenology in Japan. In addition, through the following things that we studied, we showed that a knowledge system of the phrenology affected the overall original act and gave result each and worked for the construction of the study network.

- (1) Collecting and classifying the tales and expressions about the physiognomy.
- (2) Collecting about the classical documents of the physiognomy and classify the knowledge systems.
- (3) We practice the physiognomy for classic portraits.
- (4) Construct a database by using Topic-Map and support a study.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	0	1,000,000
2010年度	1,300,000	0	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	210,000	3,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本文学一般、肖像、人相、説話文学、神話、トピックマップ、歴史物語、異相

1. 研究開始当初の背景

人の身体を観察して禍福を占う観相の歴史は古く、中国では春秋時代以来、多くの王朝の草創期を彩ってきた。しかし、観相は、同じ方技の術に属する暦・天文、易、医術などとは異なり、日本でも律令制度下における専従の官職が置かれず、その技を専業として継承する家も育たなかった。そのため、近世期を中心に数多く編み出されていた観相・方術の資料は、これまで見向きもされることなく、諸文庫の図書目録はおろか、『国書総目録』『古典籍総合目録データベース』からも漏れた資料が数多く今も坊間に流布する状況にある。

20世紀初頭には骨相学との融合により、欧米でも一時の隆盛は見たものの、科学的裏付けのある妥当性が認められずに「忘れられた」学問となった。しかし、民間での人相・骨相・手相などの観相術はなお健在である。

相人達の知識体系は、文学・絵画などの表象に根底的な影響を及ぼしたようである。就中、「画の事は山水人物を骨目として修行すべき」（雪村周継）との言葉もあるように、和漢の古典絵画において、人物は重要な主題を扱うことに他ならないからである。

また、画賛由来とされる「詩」についても、観相の発想が、俗に「詩画一如」「詩画同一」といわれる画趣論へのアプローチを可能とするものとする。この観念は、従来山水画を念頭に考えられてきたが、人物画における画賛（詩）と観相をつなぐ回路によって読み解きが可能になるものとする。そのことは、文学と絵画との距離を、文学研究の立場から縮めるだろう。

本研究では、そうした失われつつある知識体系を、修辭や故事説話の背景の視点から研究の俎上に乗せ、そこからキャラクター造型

の視点に立って、絵画表現の基層・本質を求める次元まで深化させることにより、新たな研究へ昇華させることをめざす。

さらにいえば、「観相」の理論を介して絵画・詩文を読み解く試みは、その語彙を情報検索に活用することにもなるだろう。これは、従来の感性検索とは全く異なり、それに関わる豊潤な語彙が古典的知識体系に則して運用されるもので、これまで古典語と乖離することの多かった感性検索から一歩進んで、古典文脈に則した「内容」検索実現への道を拓くものとして、多様な展開の可能性が期待されるのである。

2. 研究の目的

観相の営みは、平安・中世には、少なからぬ貴紳の嗜みにもなっており、近世期には、大雑書のような日用百科書において必須の一項となる程に庶民層へも浸透していた。これ程に一般化していた知識体系が、文芸・絵画等の創作活動に影響を与えていたであろうことは想像に難くない。

そこで、本研究では、観相書の記述と、その営みが、古典作品や記録、また様々な表現活動に及ぼした影響を検証し、観相書の知識体系を把握することで、観相の知識体系が古代より連綿と受け継がれていたことを実証する。そして、絵画と文芸等の表現活動の具体相だけにとどまらぬ、人物やキャラクター造型という創作活動に対しても、新たな視点による分析と通して、理論を構築し、提示することをめざす。

そして、近代化の文脈の中でカルト化・秘儀化された観のある占いを古典的知識体系の中に改めて位置づけることにより、新しい古典的「学問知」の再検証を通じて現代学問への応用と利活用を試みるものである。

3. 研究の方法

申請計画に沿って以下の研究を遂行した。

(1) 観相譚・観相表現の発掘と分類

日本における観相譚と観相書の記述との比較、人物表現と観相書の記述の比較に着目した事例の発掘を進め、それぞれ分類した。

(2) 観相資料と知識体系の理解と把握

観相資料の理解についての専門的知識を得るため、国内外の各地に取材することにより、今なお行われる観相技術の実態を把握し、比較した。

(3) 古典絵画を対象とする観相の実践

和漢の画論に記載される肖像画家は人相術に通曉しなければならないという記載の検証を、実際に画像分析に応用する。試料には、申請者の構築にかかる『歴史人物画像データベース』や代表・分担者所蔵の絵画を利用し、あわせて、画賛における表現の分析を進めた。

(4) 研究をサポートするためのデータベースの構築

上記検証作業をサポートするために、相書に記載される絵を分類した観相データベースを構築した。

4. 研究成果

以下の研究を行い、それぞれ研究成果を発表した。

(1) 観相譚・観相表現の発掘と分類

①中国正史の目録に記載される相書や、日本に残存する唐本や和刻本との比較・分析を行い、日本に残存する相書が世界的にも貴重であることを確認した。

②日本・中国の観相譚と異相に関わる言説の採集を行った。特に「重瞳」の異相に関わる言説について研究成果を発表し、日本における「重瞳」の異相は、その人の不孝を象徴す

るものではなく、むしろ偉人伝説の潤色のために積極的に付与された傾向がある点が中国と異なる点を明らかにした。

③聖徳太子の観相について、平成 22 年度まで研究分担者であった渡辺信和氏の資料をもとに、聖徳太子伝注釈書の分析を進め、その言説と相書との比較・分析を行い、その成果を発表した。この成果により、『源氏物語』桐壺における観相の系譜を改めて位置づけることができた。また、研究分担者から資料提供を受けた大雑書類の観相部分の記述の変容について考察を進めた他、幸若・西鶴等を中心に文学作品における観相表現の分析を進めた。

(2) 観相資料と知識体系の理解と把握

台湾・中国・香港・ベトナムにおいて古典的相書を購入したほか、国内古書店より相書・大雑書類の収集と図書館所蔵の相書の撮影やコピーの入手を行った。また、観相の具体例を取材するために、人相占いの実地調査も進め、国内では、石切神社近辺の占い通り、海外では中国では浙江省天童寺、香港占い街、台湾の龍山寺や行天宮付近の実地調査を行い、観相技術を把握し、比較した。

(3) 古典絵画を対象とする観相の実践

画論に見える観相についての記述の妥当性を検証するため、近世後期の絵入人物叢伝の絵画と『神相全編』および同正義に記載される絵画の比較した観相を試み、説得性のある結果を得たので、口頭と論文による成果を行った。

俗相の利休(歌川国芳:画)
八相并六面之図



図 1 相書と肖像の比較

また、SD 法による感性分析や絵画比較を行った。試料には『歴史人物画像データベース』などを利用し、被験者には研究分担・補助者や、分担者の講義受講者(学生)を宛て、26 種 500 件のアンケートを収集することができた。ただし、実験を重ねるつれ、留学生の中には人相・キャラクターを読み取る者もいることが判明し、今後の分析方法に留意を要することも分かった。

情報学的・統計学的手法による分析と実証

	マイナスの好感度	3	2	1	0	1	2	3	プラスの好感度	最小最大	平均	標準偏差
相書性	驚かさない	2	3	4	4	2			驚かす	-2	2	0.1394538
相書性	みだらない	1	1	5	4	3			まじめ	-1	3	0.1095444
相書性	いやらしい	1	1	5	4	3			好ましい	-3	2	0.1337712
相書性	みにくい	2	3	4	4	3			美しい	-3	2	0.1852587
相書性	子供っぽい			1	3	6	10		大人っぽい	0	3	0.0910466
相書性	つまらない	1	2	1	3	4	1	2	おもしろい	-3	3	0.1276302
相書性	おろかな	1	3	3	3	3	2		かっこいい	-2	3	0.1450653
相書性	悪い	2	4	2	4	5			良い	-3	2	0.1822536 19件
相書性	驚かす	4	4	2	4	1	1		驚い	-3	2	0.1244111
相書性	やぼらない	3	1	2	2	1	1		しつぱ	-3	2	0.1482352
活動性	暗い	2	2	5	3	2			明るい	-3	2	0.1464991
活動性	つめたい	2	2	4	2	3			あたたかい	-3	2	0.1391705
活動性	厚皮だな			1	2	4	12		薄皮だな	-1	2	0.0933904
活動性	汚らわしい	4	4	2	1	3			清潔な	-3	2	0.1700919
活動性	不愉快な	2	1	4	3	1	3		愉快な	-3	2	0.148324
活動性	変りない	3	1	2	3	3			変りある	-3	2	0.168973 19件
活動性	平気な	2	1	2	2	4	1		よそよそ	-3	3	0.1539192
活動性	親しい	1	1	3	3	3	4		遠い	-2	3	0.1391705
活動性	地味な	1	1	3	3	5	1		豪華な	-2	3	0.1308977
相書性	2 匹な	2	2	4	3	3			立派な	-1	3	0.0944136 19件
相書性	あちあちしい	2	2	3	5	3			おだやかな	-1	3	0.1164158
相書性	うわべだけ	2	4	5	3	3			深みのある	-2	3	0.1447321
相書性	軽い	4	2	3	3	3			重たい	-0	3	0.0966638
相書性	やわらかい	2	4	2	3	3			かたい	-2	3	0.1232651
相書性	涼しい	2	1	4	3	3	4		暑い	-2	3	0.1539192
相書性	男性的な	3	3	4	2	2			女性的な	-3	3	0.2039092
相書性	清楚的な	2	2	4	1	1			雑駁な	-2	3	0.1276302
相書性	容姿がいい	2	4	4	3				容姿が悪い	-3	2	0.1447321
相書性	にくらしい	3	1	4	3	4			かわいらしい	-3	1	0.1446411
相書性	かたい	3	3	3	4	3			うれしい	-2	2	0.1290994

図 2 SD 法による感性アンケート

(4) 研究をサポートするためのデータベースの構築

慶安版『神相全編』『神相全編正義』『麻衣相法』『天保新撰永代大雑書万暦大成』に収録される絵を集成・整理・分類して各項目についてエクセルを使用した階層的記述構造を持たせた電子テキスト化を行った。また、に収録される各種人相、および眉・目・口・耳・鼻などの各部位の相をそれぞれ画像として切り出し、トピックマッ

プを使用したデータベース化を行い、「観相トピックマップ」として WEB 公開を行った。これにより、日本・中国における最も多用された相書の古典を網羅することができた。また、国文学研究資料館の歴史人物画像データベースと組み合わせることにより、各肖像の人相を分析することが可能になった。

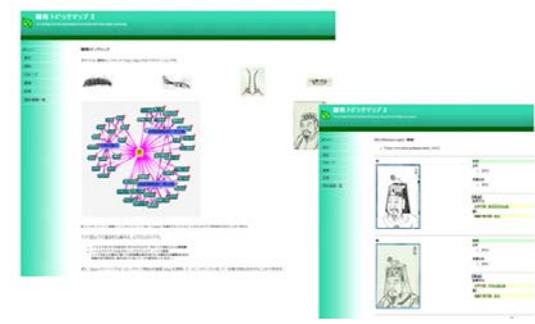


図 3 観相トピックマップデータベース

(5) 研究ネットワークの構築

アメリカ AAS における研究発表を通じて、在米台湾人研究者とのネットワークを持つことができ、研究動向の紹介と研究情報を得ることができた。その結果、日本残存資料の価値が高いことと、それらがまだ海外に十分に知られていないことがわかった。また、韓国人研究者との交流により、韓国における観相の情報を得ることができ、今後、調査や研究交流を進める可能性が開けた。

5. 主な発表論文等

- (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
- 〔雑誌論文〕(計 12 件)
- ① 相田満、相書にみる唐本と和刻本(由相書看唐本與和刻本)、古典籍の形態・図像と本文—日中書物史の比較研究—、国文学研究資料館、査読無、2011、pp1-15
- ② 相田満、利休の顔(続) 俗相の利休—『秀雅百人一首』に収録される異形の利休像の観相的分析—、『茶譜 卷三 注釈』、大東文化大学東洋研究所、査読無、2011、pp140-151
- ③ 井田太郎、抱一と其角—「吉原月次風俗図」をめぐって(小特集 文学と絵画の接

- 点)、文学・語学、199、査読有、2011、
全国大学国語国文学会、pp98-108
- ④ 相田満、利休の顔—観相的分析の試み—、
『茶譜 卷二 注釈』、大東文化大学東洋研
究所、査読無、2010、pp129-142
 - ⑤ 相田満、観相オントロジの可能性、情報
処理学会研究報告 人文科学とコンピュ
ータ、Vol. 2010-CH-88 No. 1、情報処理学
会、査読無、2010、pp1-8

〔学会発表〕(計 14 件)

- ① AIDA Mitsuru、Reflecting Different
Faces of One's Character: Chinese
Physiognomy in Heian Literature、51st
Annual Meeting Furman University
Greenville, South Carolina
(Association for Asian Studies)、
14/Jan/2012、Hyatt Regency
Greenville、(South Carolina, USA)
- ② 相田満・渡辺信和、聖徳太子の観相、水
門の会東京例会、2012年1月8日、大東
文化会館
- ③ 相田満、人間観察から生まれた観相のも
たらした文化と言説(招待発表)、2011年
度輔仁大日本語学科国際シンポジウム
「文化における身体」、2011年11月19
日、輔仁大学済時楼(台湾)
- ④ 相田満、相書にみる唐本と和刻本、中日
書籍史比較研究学術検討会、2010年12
月23日、中国国家図書館(中華人民共和
国・北京)
- ⑤ 相田満、観相オントロジの可能性、情報
処理学会「人文科学とコンピュータ
(SIG-CH)」第88回研究発表会、2010
年10月30日、国立国語研究所(東京)
- ⑥ 相田満、日本の古典絵画を観相する、和
漢比較文学会特別研究発表会、2010年9
月3日、国立台湾大学(台湾)
- ⑦ 井田太郎、俳人肖像をめぐる問題、「古典
とキャラクターを考える」公開研究会、
2009年9月7日、国文学研究資料館

〔図書〕(計 1 件)

- ① 石井行雄、三弥井書店、園城寺蔵 智証
大師自筆文字史資料集 天台寺門宗教文
化資料集成国語・国文学編、2011、83

〔その他〕

ホームページ等

観相トピックマップ3

<http://115.146.17.185/physiognomy3/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

相田 満 (AIDA MITSURU)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：00249921

(2) 研究分担者

井田 太郎 (IDA TARO)

国文学研究資料館・研究部・助教

研究者番号：20413916

石井 行雄 (ISHII YUKIO)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60241402

渡辺 信和 (WATANABE NOBUKAZU)

同朋大学・文学部・主任研究員

研究者番号：40350996[平成 22 年 12 月逝
去]